

仙台市のエイズ・性感染症の動向（令和 6 年 12 月現在）

1. HIV・エイズ発生動向

（1）HIV 感染者とエイズ患者報告数 年次推移の比較

○ 全国の状況

・ HIV 感染者およびエイズ患者の年間新規報告数は近年減少傾向となっていたが、令和 6 年の HIV 感染者数は 662 件、エイズ患者数は 329 件で、HIV 感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数は 991 件であり、いずれも前年より増加した。【図 1】

図 1 全国の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移 【昭和 60 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）

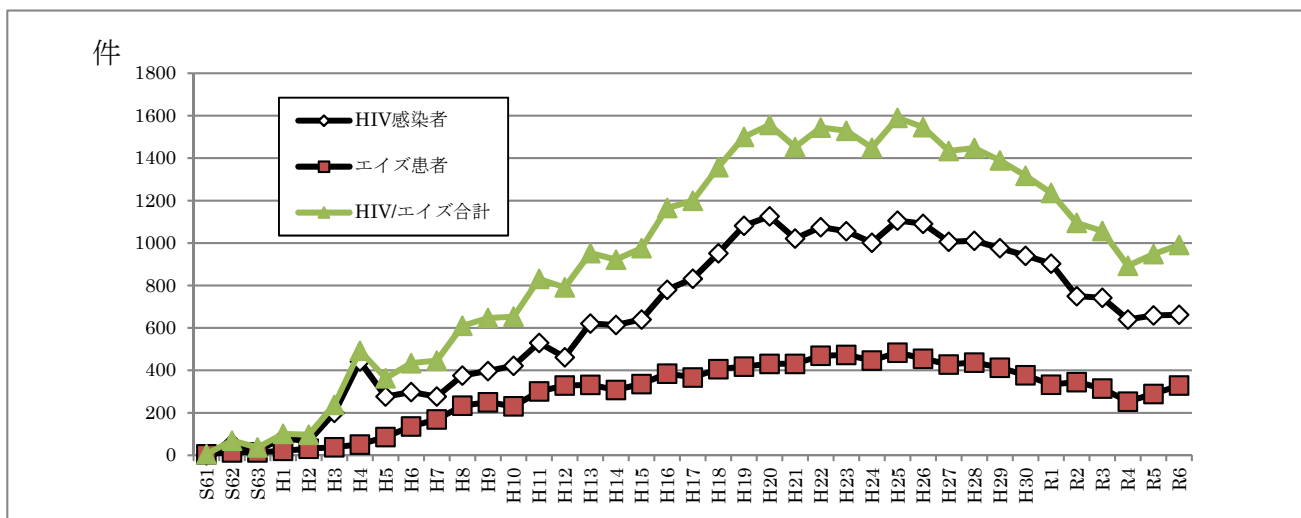
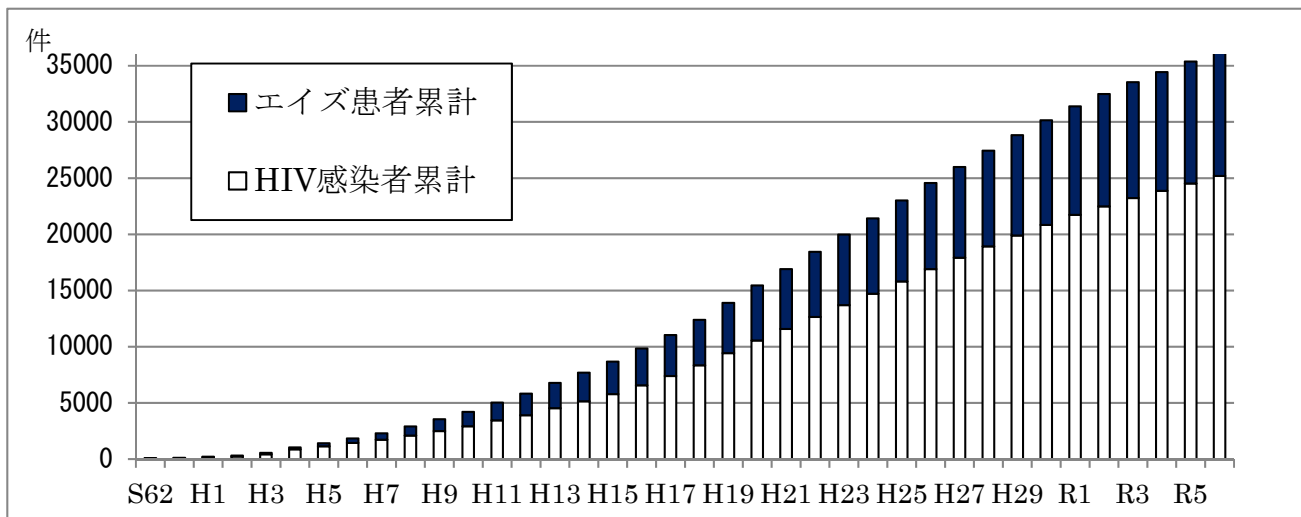


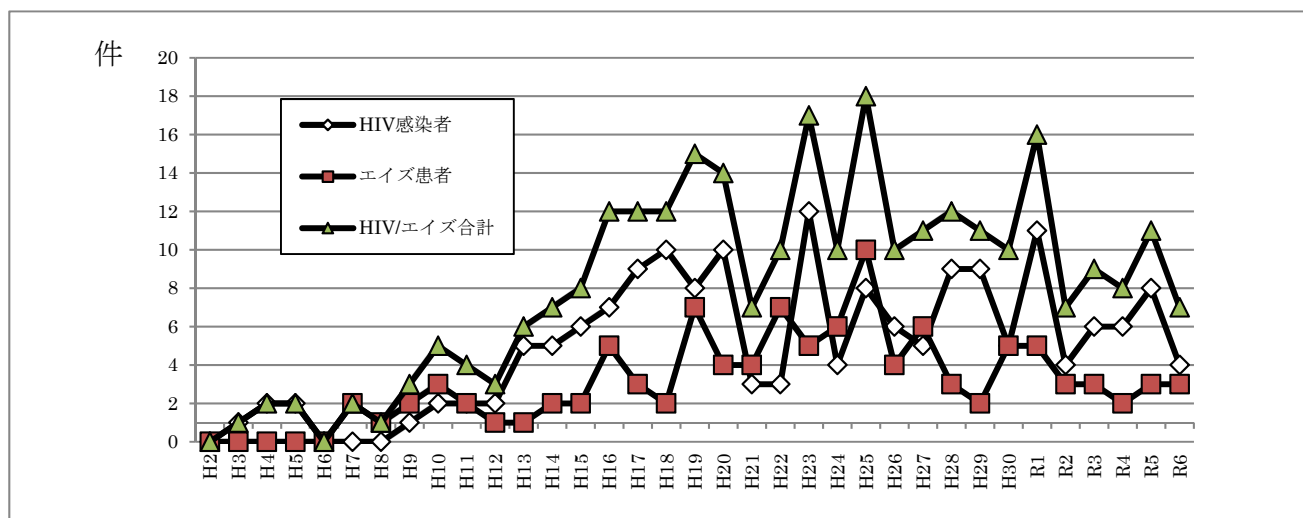
図 2 全国の HIV 感染者とエイズ患者の累積報告数【昭和 60 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）



○ 仙台市の状況

- ・新規報告数は令和 5 年（確定値）が HIV 感染者 8 件、エイズ患者 3 件の計 11 件、令和 6 年（速報値）が HIV 感染者 4 件、エイズ患者 3 件の計 7 件であった。【図 3】

図 3 仙台市の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移【昭和 63 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）



(2) いきなりエイズ率 年次推移の比較

※「いきなりエイズ率」とは、HIV 感染を認知せずにエイズを発症した事例の割合を言う。

・仙台市の「いきなりエイズ率」は年によってばらつきがあり、令和 6 年は 42.9%と前年より増加した。【図 5】

図 5 全国及び仙台市の「いきなりエイズ率」の年次推移 【平成 22 年～令和 6 年】(令和 6 年は速報値)

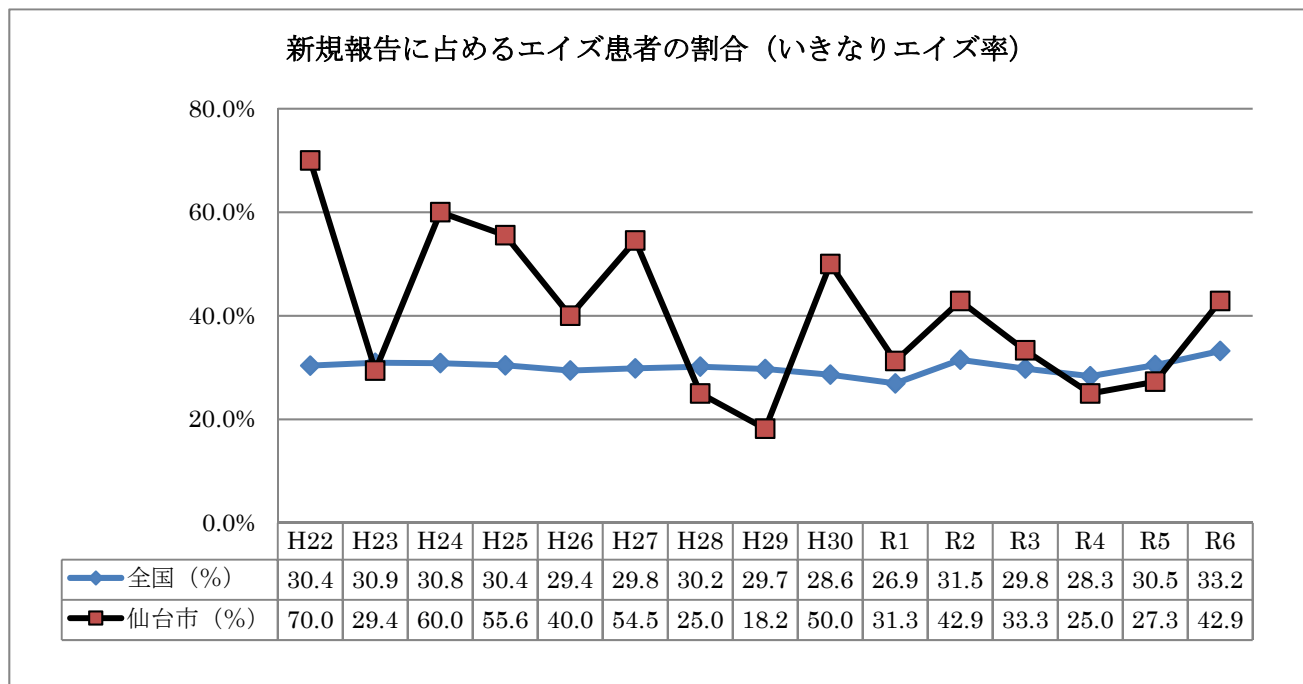
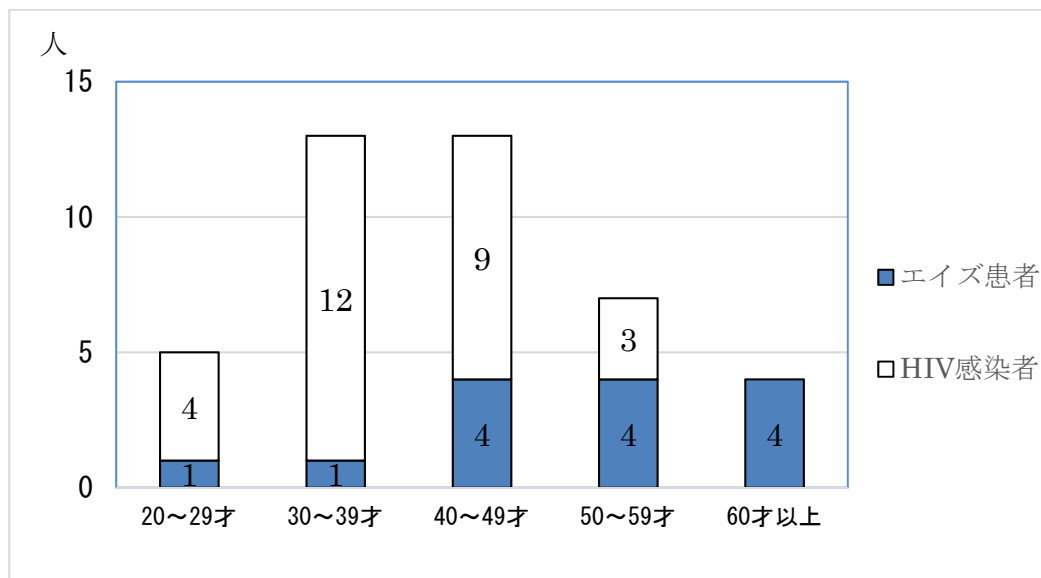


図 6 仙台市の HIV 感染者・エイズ患者年齢別報告数【令和 2 年～令和 6 年累計】(令和 6 年は速報値)



(3) 仙台市の HIV 感染者とエイズ患者の推定感染原因

○ 過去 5 年の報告における推定感染原因【図 7】

- ・推定感染原因が判明している方は 81.0%で、すべて性的接触による感染であった。
- ・同性間性的接触が約半数を占め 54.8%であった。

○ 年次推移報告【図 8】

- ・令和 5 年は、同性間性的接触が 63.6%であった。令和 6 年は、同性間性的接触が 71.4%と最多であった。

図 7 仙台市の推定感染原因別感染者・患者報告割合 【令和 2 年～令和 6 年累計】（令和 6 年は速報値）

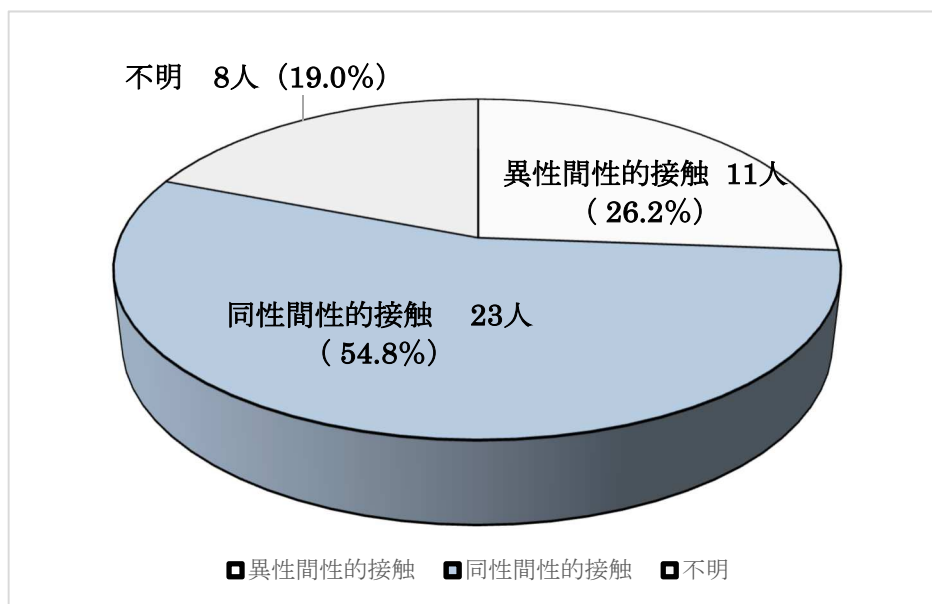
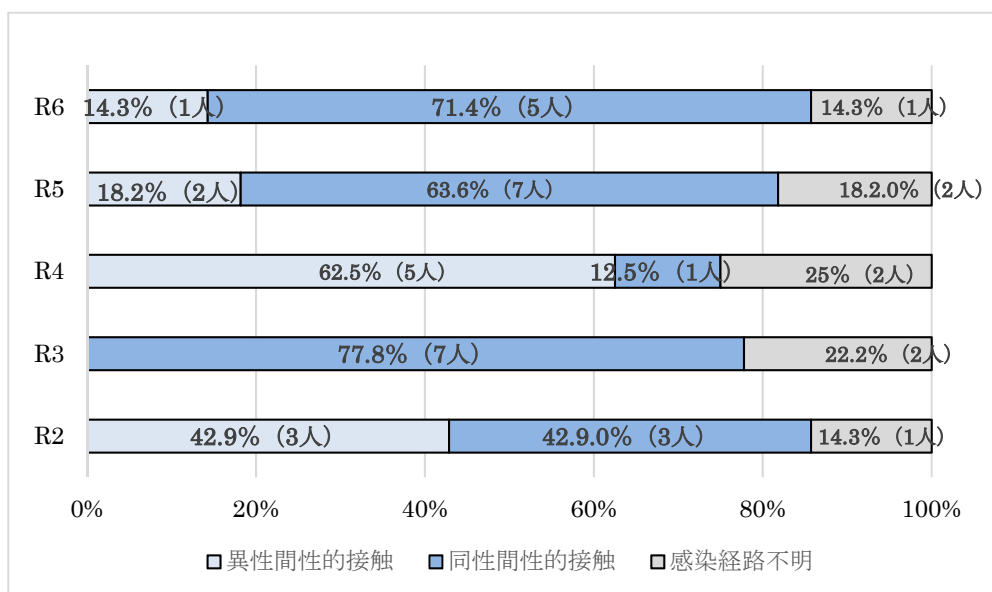


図 8 仙台市の感染原因別割合の年次推移【令和 2 年～令和 6 年累計】（令和 6 年は速報値）



2. 梅毒発生動向

○ 全国の状況

・平成 23 年以降増加傾向にあり、特に平成 28 年から平成 30 年にかけて大幅な増加がみられ、令和 4 年に急増した。令和 6 年の報告数は 14,663 件と前年より約 392 件減少した。【図 9】

・男女別でみると、過去 5 年間、いずれの年も男性の報告数が女性よりも多い。

【図 10】

・令和 6 年の報告を性別・年代別にみると、20 代女性の報告が最も多い。男性は 20 代～50 代に多く、女性は 20 代が突出して多い。【図 11・図 15④⑤⑥】

図 9 全国の病期別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）

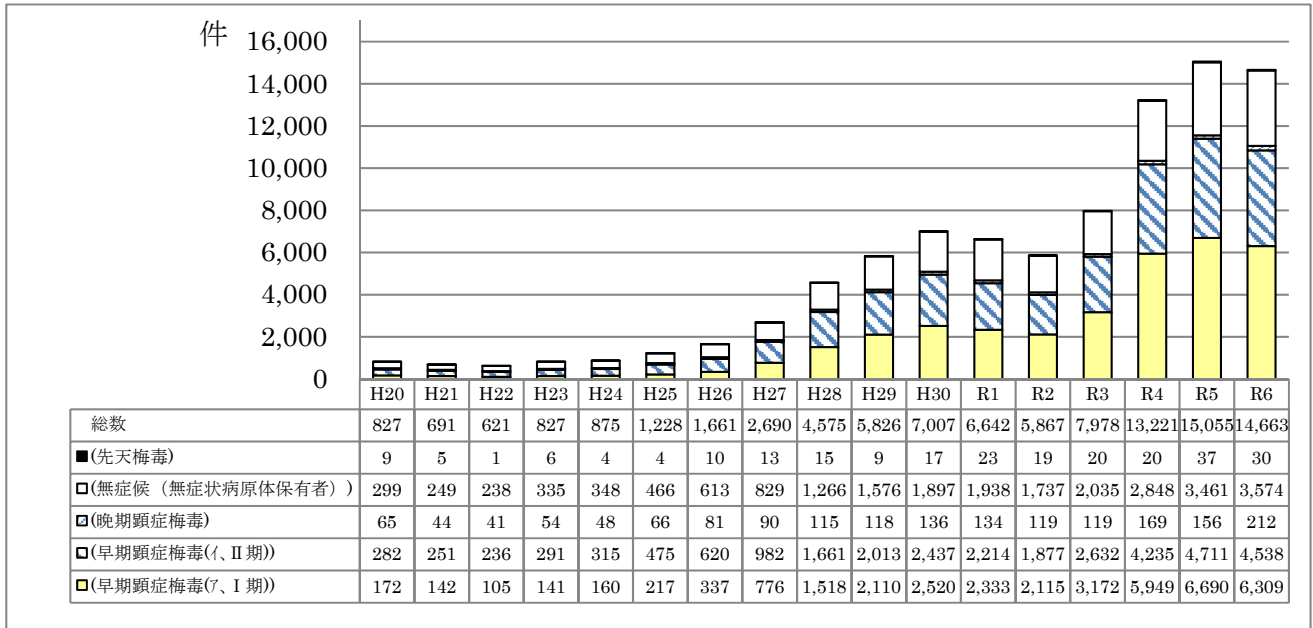
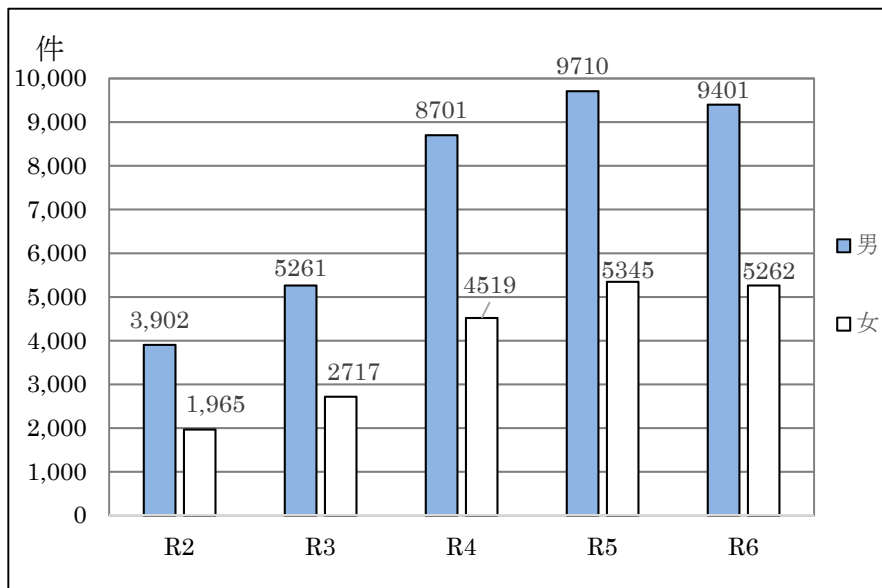
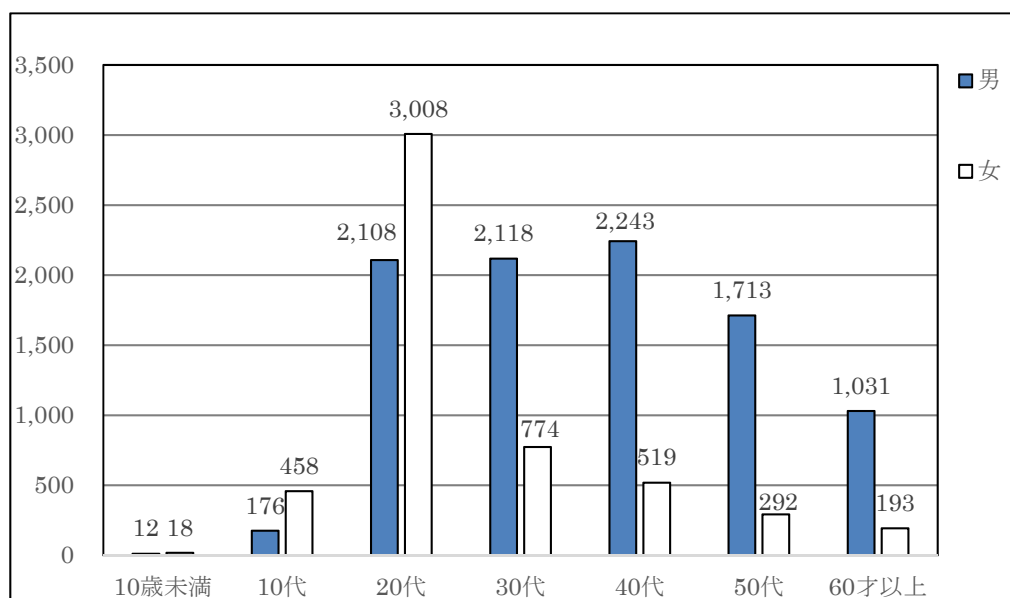


図 10 全国の男女別梅毒報告数の推移【令和 2 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）



※国立感染症研究所報告
（令和 4 年）において、全
数 13,221 件、男性 8,701
件、女性 4,519 件となっ
ており、
1 件の誤差がある。

図 11 全国の年代別梅毒報告数【令和 6 年】（令和 6 年は速報値）



○ 仙台市の状況

- ・仙台市の梅毒報告数は、令和 5 年に 126 件と過去最多となり、令和 6 年は 125 件となった。【図 12】
- ・男女別にみると、過去 5 年いずれの年も男性の報告数が女性より多い。【図 13】
- ・令和 6 年の報告を性別・年代別にみると、30 代～40 代の男性が多く、女性は 20 代に多い。【図 14・図 15①②③】

図 12 仙台市の病期別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）

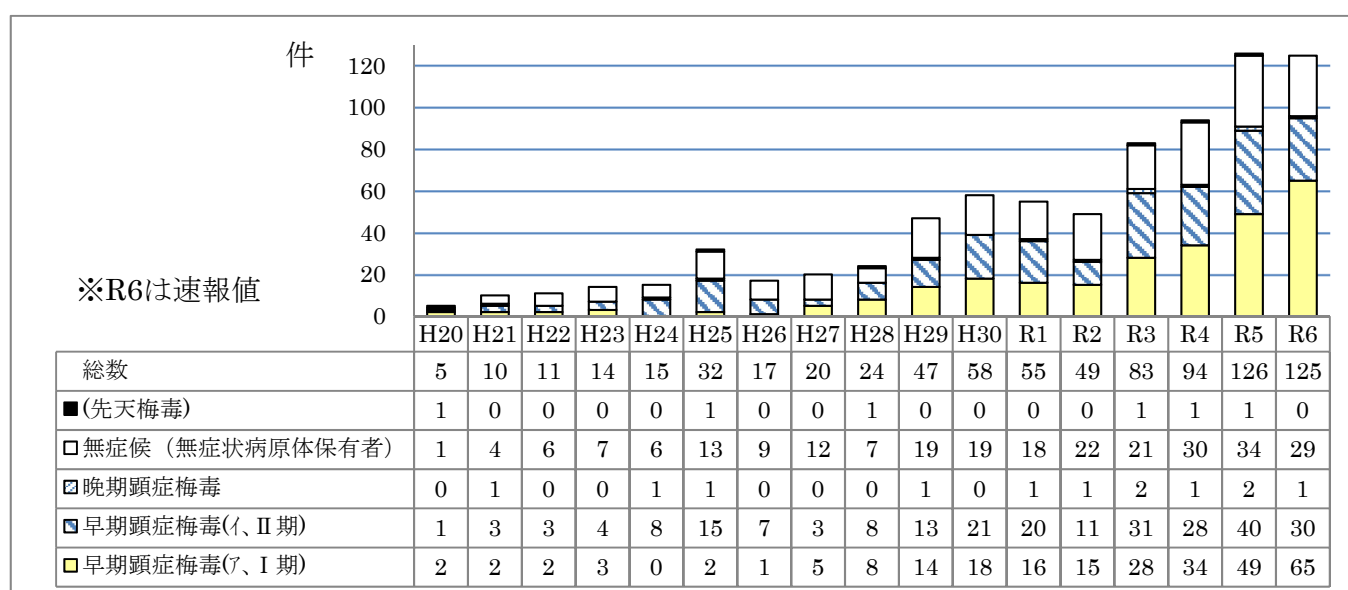


図 13 仙台市の男女別梅毒報告数の推移【令和 2 年～令和 6 年】（令和 6 年は速報値）

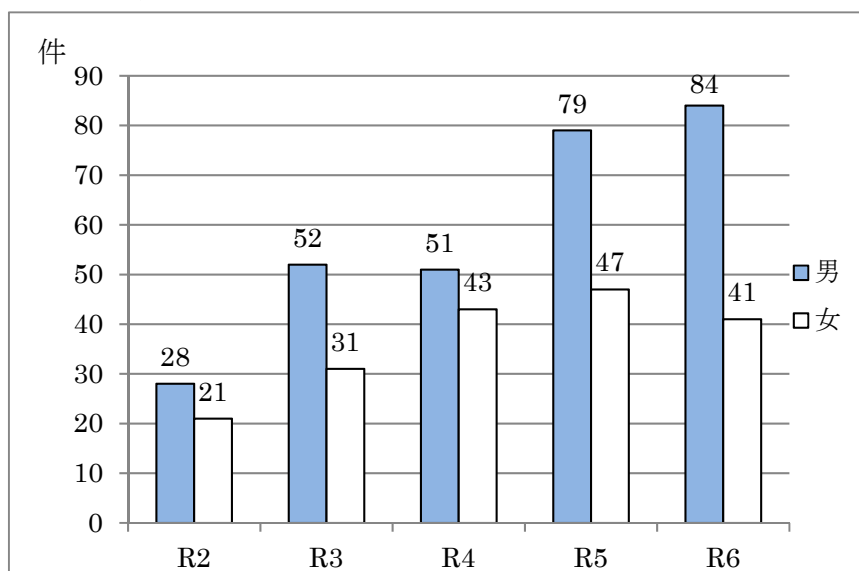


図 14 仙台市の年代別梅毒報告数【令和 6 年】（令和 6 年は速報値）

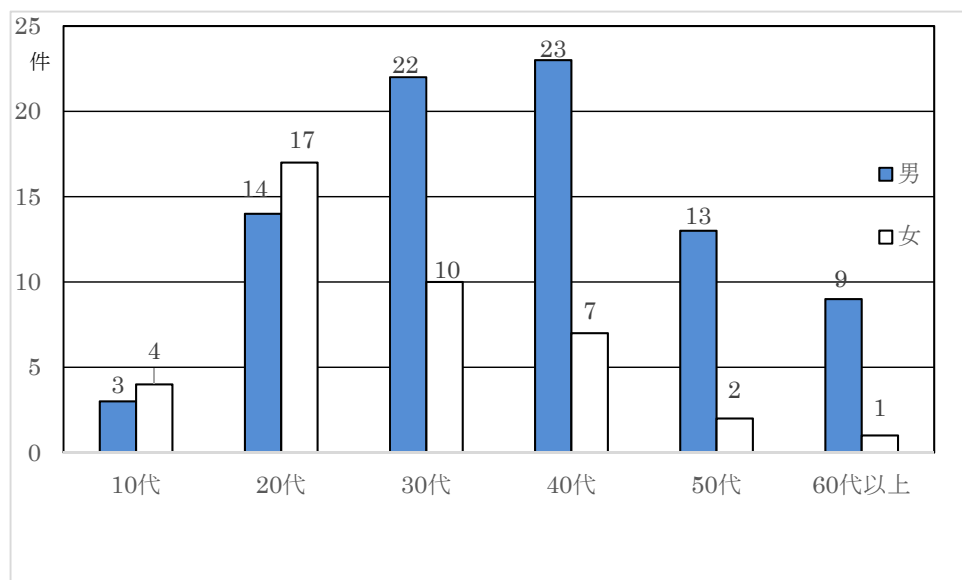
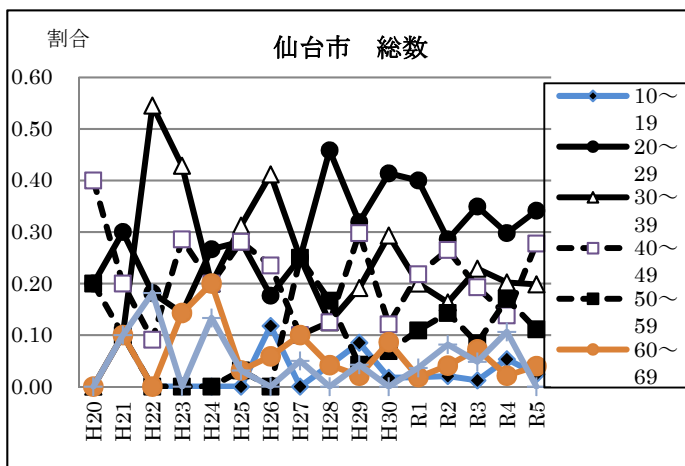
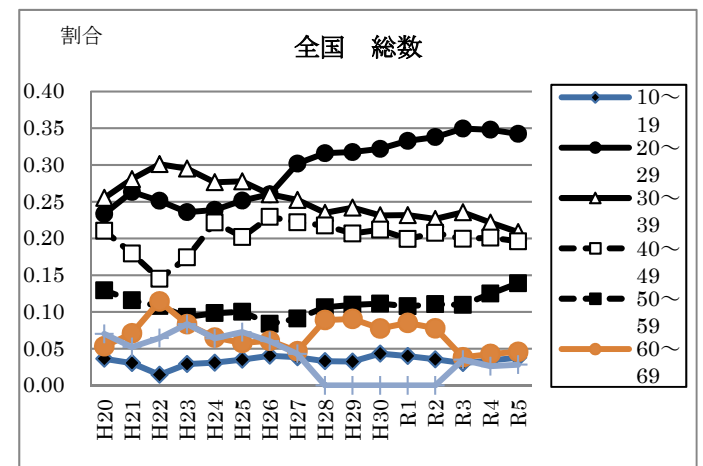


図 15 仙台市・全国の性別・年代別梅毒報告割合の推移【平成 20 年～令和 5 年 10 代以上】

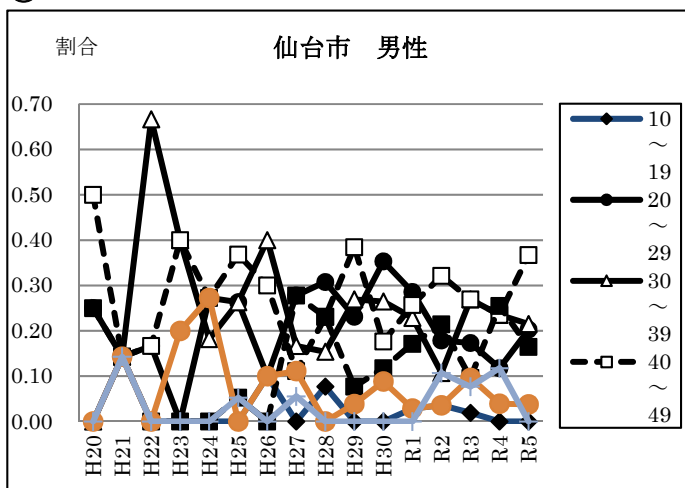
①



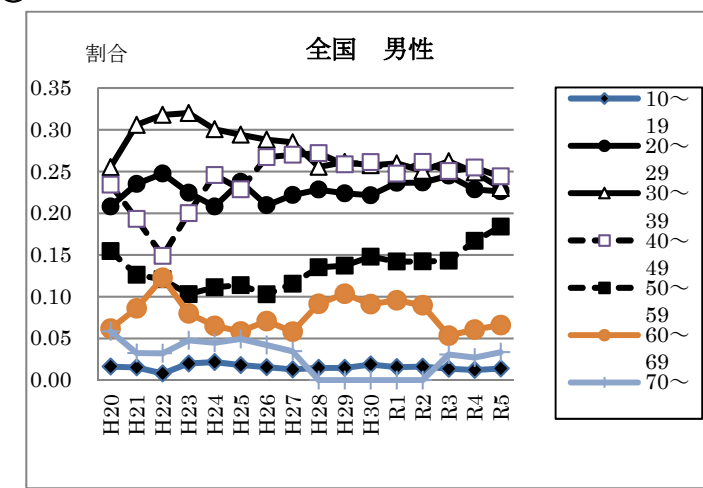
④



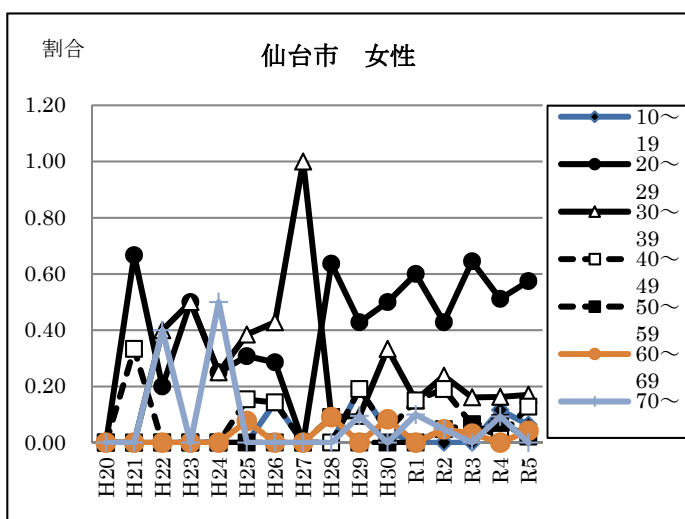
②



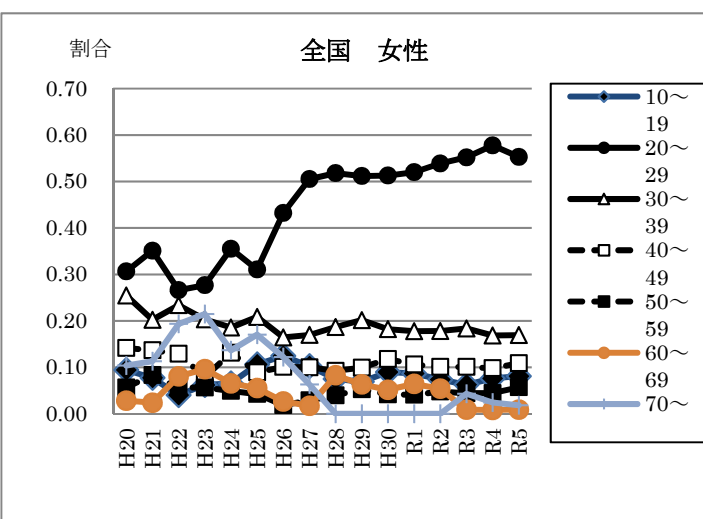
⑤



③



⑥



○ 梅毒発生届に追加となった事項のまとめ（仙台市の状況）【表 1】

- ・平成 31 年 1 月より、医療機関からの梅毒届出事項に以下の項目が追加された。
 - ①性風俗産業の従事歴の有無（直近 6 か月以内） ②性風俗産業の利用歴の有無（直近 6 か月以内） ③口腔咽頭病変の有無 ④妊娠の有無 ⑤梅毒の治療歴の有無 ⑥HIV 感染症の合併の有無
- ・仙台市の令和 6 年の梅毒報告数 125 名（男性 84 名、女性 41 名）の内訳は表 1 のとおりであった。
- ・仙台市の届出のうち、直近 6 か月以内に性風俗産業の従事歴・利用歴があると確認されている者の割合は、令和 6 年は 46.4%である。【表 2】

表 1 仙台市の梅毒患者の状況【令和 6 年届出分】（令和 6 年は速報値）

① 性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内）

区分	男性 84 名中	女性 41 名中	合計 125 名（割合）
あり	2	21	23（18.4%）
なし	60	9	69（55.2%）
不明・記載なし	22	11	33（26.4%）

② 性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内）

区分	男性 84 名中	女性 41 名中	合計 125 名（割合）
あり	32	3	35（28.0%）
なし	34	18	52（41.6%）
不明・記載なし	18	20	38（30.4%）

③ 口腔咽頭病変

区分	男性 84 名中	女性 41 名中	合計 125 名（割合）
あり	0	1	1（0.8%）
なし	84	40	124（99.2%）

④ 妊娠

区分	女性 41 名中（割合）
あり	4※（9.8%）
なし	35（85.4%）
不明・記載なし	2（4.9%）

※妊娠 7 週 1 名、9 週 2 名、13 週 1 名

⑤ 梅毒の治療歴

区分	男性 84 名中	女性 41 名中	合計 125 名（割合）
あり	9	3	12（9.6%）
なし	64	36	100（80.0%）
不明・記載なし	11	2	13（10.4%）

⑥ HIV 感染症の合併

区分	男性 84 名中	女性 41 名中	合計 125 名（割合）
あり	6	0	6（4.8%）
なし	17	19	36（28.8%）
不明・記載なし	61	22	83（66.4%）

※端数処理の関係上、割合の合計が 100%とならない場合がある。

表 2 性風俗産業の従事歴・利用歴ありと確認されている者の割合

【仙台市の令和 2 年～令和 6 年の状況】（令和 6 年は速報値）

区分	全梅毒報告数 （件）	性風俗産業の従事歴 ・利用歴あり（件） （直近 6 か月以内・実 数）	性風俗産業の従事歴 ・利用歴ありの者の割合 （直近 6 か月以内）
令和 2 年	49	20	40.8%
令和 3 年	83	33	39.8%
令和 4 年	94	29	30.9%
令和 5 年	126	48	38.1%
令和 6 年	125	58	46.4%

3. その他の性感染症の発生動向

・性感染症 4 疾患の定点あたり報告数については、仙台市の報告数は全国の報告数に比較して多い傾向にある。【図 16】

・令和 5 年の仙台市と全国の 4 疾患の定点あたり報告数を年代別・性別にみると、性器クラミジア感染症は、男性の 10 代後半、20 代後半、40 代で全国に比べて多く、また女性の 10 代後半、20 代、30 代、40 代で全国に比べて多い。性器ヘルペスウイルス感染症は、男性の 20 代以上のすべての年代で多く、女性の 10 代後半～20 代、30 代前半で全国より多い。淋菌は男性の 10 代後半、30 代後半～50 代前半で全国に比べて多く、女性の 10 代後半～20 代で全国よりも特に多い。尖圭コンジローマは、男性の 20 代以上のすべての年代で全国よりも多く、女性の 20 代が特に全国に比べ多い。【図 17】

※ 性感染症 4 疾患は定点報告

※ 令和 5 年の性感染症 4 疾患の定点医療機関として、産婦人科 5 か所、泌尿器科 3 か所に報告を依頼している。

図 16 全国・仙台市性感染症定点あたり報告数の年次推移【令和元年～令和 5 年】

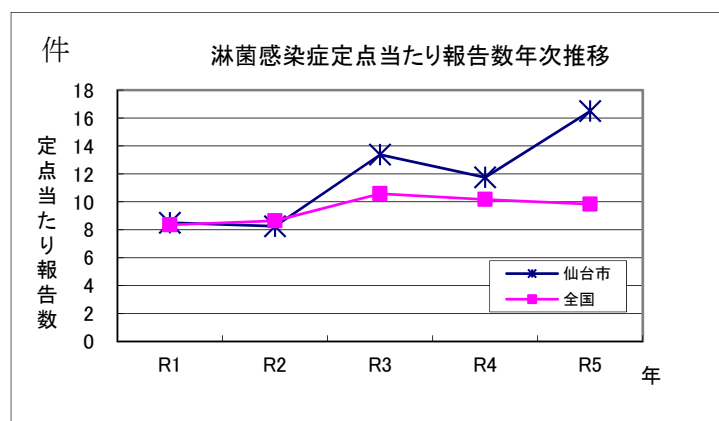
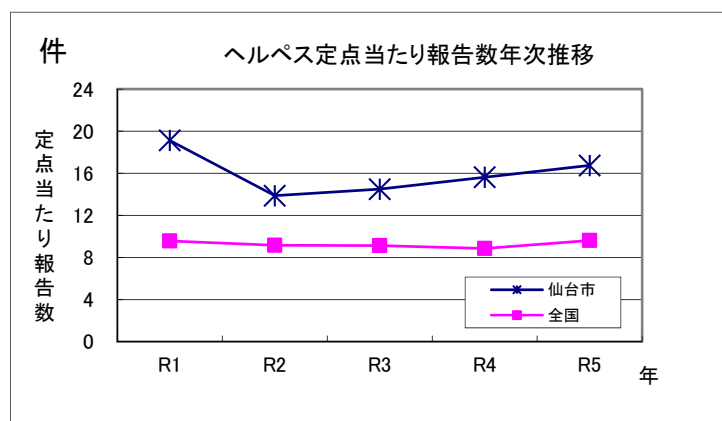
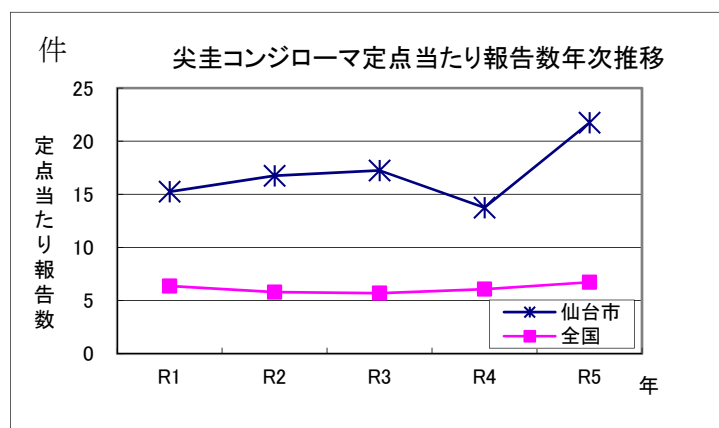
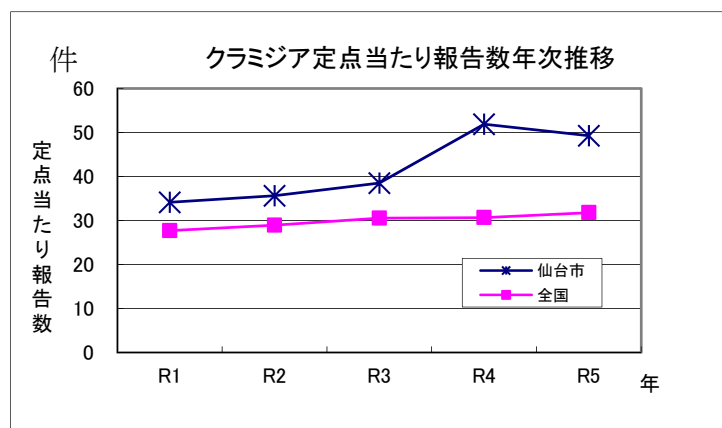
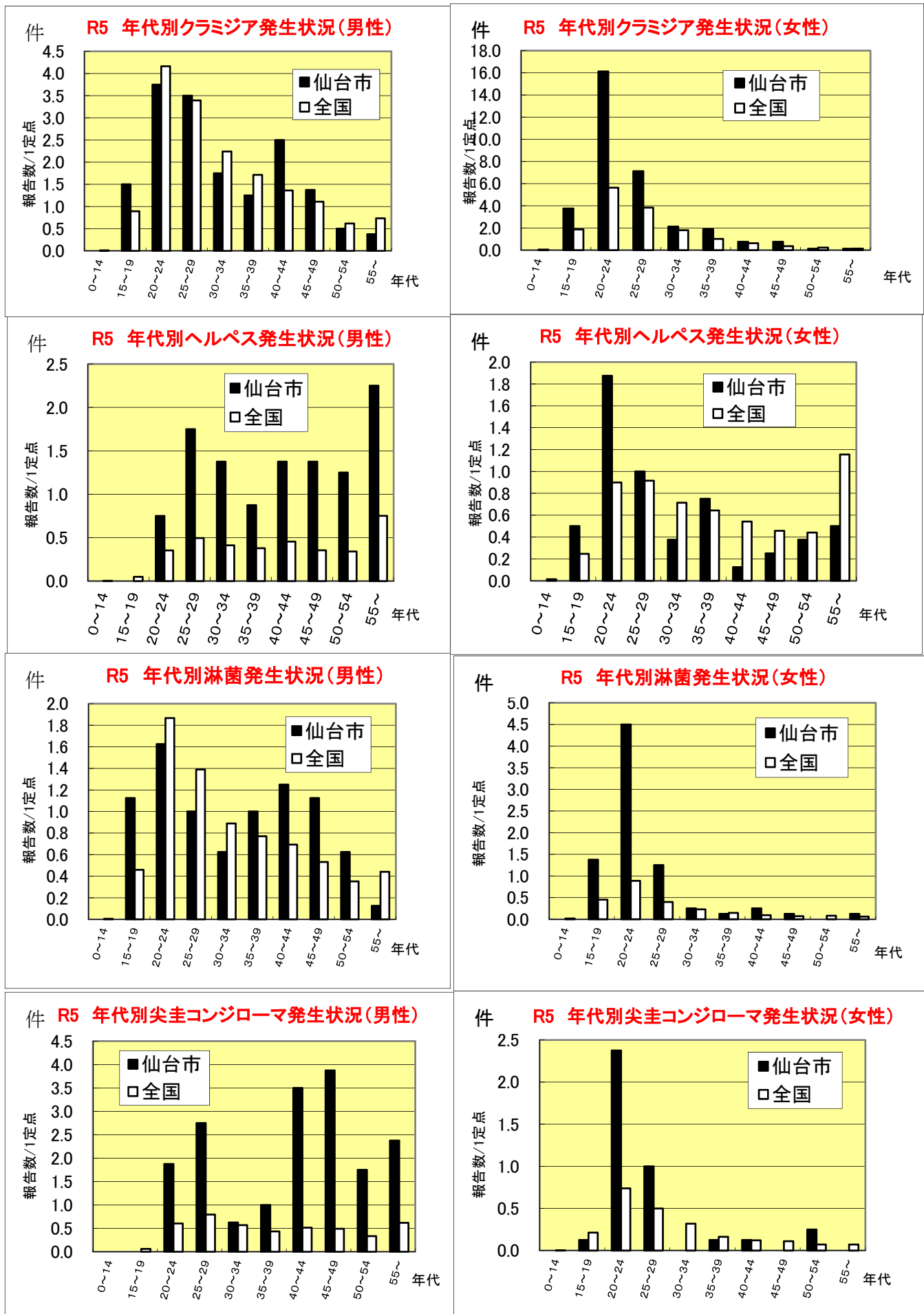


図 17 令和 5 年 年代別・性別 性感染症発生状況（全国・仙台市との比較）

< 男性 >

< 女性 >



4. 仙台市保健所の HIV・性感染症検査の実施状況

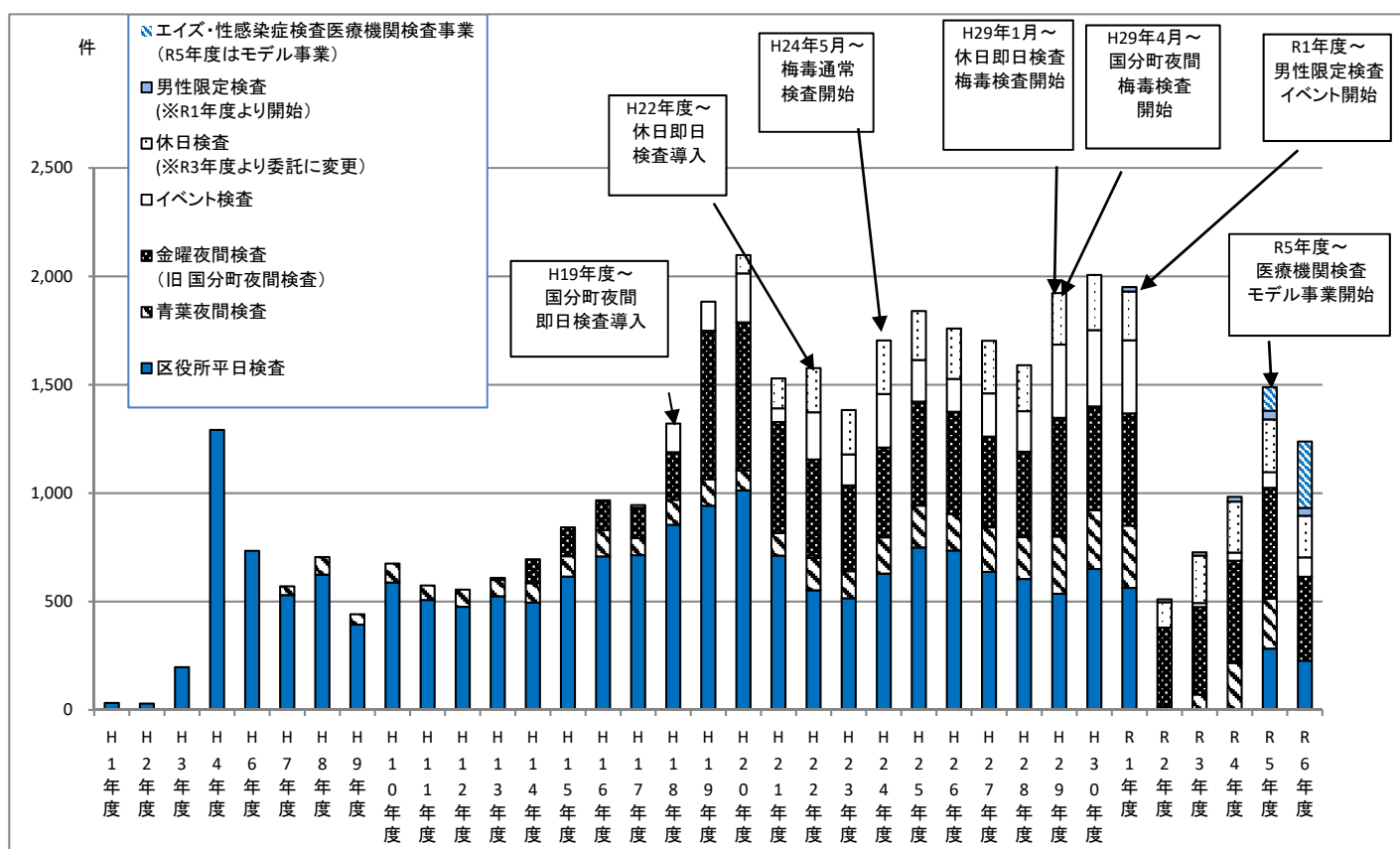
(1) HIV 検査

- ・新型コロナウイルス感染症対応のため休止していた、各区役所の平日日中検査を令和 5 年度より順次再開。
- ・令和 6 年度の検査数は 1,238 件である（11 月末現在）。【表 3】

表 3 仙台市保健所の HIV 検査件数【令和 2 年度～令和 6 年度】(令和 6 年度は 11 月末現在)

年度			R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 (11 月末)
検査数(件)			510	727	983	1,489	1,238
内 訳	① 区役所平日	件数 (1 回平均)	7 (1.8)	休止	休止	283 (6.4)	227 (4.9)
		割合(%)	1.4			19	18.3
		陽性件数	0			0	0
	② 青葉区役所 夜間	件数 (1 回平均)	9 (9)	71 (14.2)	217 (18.1)	230 (19.2)	
		割合(%)	1.8	9.8	22.1	15.4	
		陽性件数	0	0	0	1	
	③ 休日 (H22～即日、R3.4 月 より健康相談所 興 生館に会場変更)	件数 (1 回平均)	117 (13.0)	219 (18.3)	235 (19.6)	243 (20.3)	192 (24)
		割合(%)	22.9	30.1	23.9	16.3	15.5
		陽性件数	1	1	0	1	0
	④ イベント(即 日)	件数 (1 回平均)	0	18 (18)	38 (38)	72 (36)	90 (45)
		割合(%)	0	2.5	3.9	4.8	7.3
		陽性件数	0	1	1	0	0
	⑤ アエル夜間 (H19～即日) (旧 国分町夜間 H31.1 月～アエルに 会場変更)	件数 (1 回平均)	364 (15.8)	404 (18.4)	471 (20.5)	512 (23.3)	387 (24.2)
		割合(%)	71.4	55.6	47.9	34.4	31.3
		陽性件数	0	0	1	0	0
	⑥ 男性限定検査 (即日、R1～開始)	件数 (1 回平均)	13 (13)	15 (15)	22 (22)	40 (40)	36 (36)
		割合(%)	2.5	2.0	2.2	2.7	2.9
		陽性件数	0	0	0	0	0
	⑦ HIV・性感染症 検査医療機関検 査事業 (R5 はモデル事業)	件数				109	306
		割合(%)				7.3	24.7
		陽性件数				0	0
年度別 陽性者数合計(人)			1	2	2	2	0
年度別 陽性率(%)			0.26	0.28	0.20	0.13	0

図 18 仙台市保健所のHIV検査件数の推移(令和6年度は11月末現在)



○ 受検者の傾向

- ・令和5年度の受検者のうち市内在住者が約8割であった。【図19】
- ・令和5年度の受検者の半分近くが初めての受検であった。【図20】
- ・令和5年度の受検者は約7割が男性、約3割が女性だった。【図21】
- ・令和5年度の年代別では20代が最も多く、ついで30代が多かった。【図22】
- ・過去5年間の受検理由としては、「性行為による心配」の割合が最も多い。【表4】
- ・MSM（男性と性的接触のある男性）の受検割合は、約12%～16%で推移しており、令和5年度は15.7%だった。【表5】
- ・検査を知るきっかけは過去5年間いずれの年もホームページという回答が最も多く、令和5年度も同様だった。【図23・24】

図 19 HIV検査受検者の居住地別割合【令和5年度】

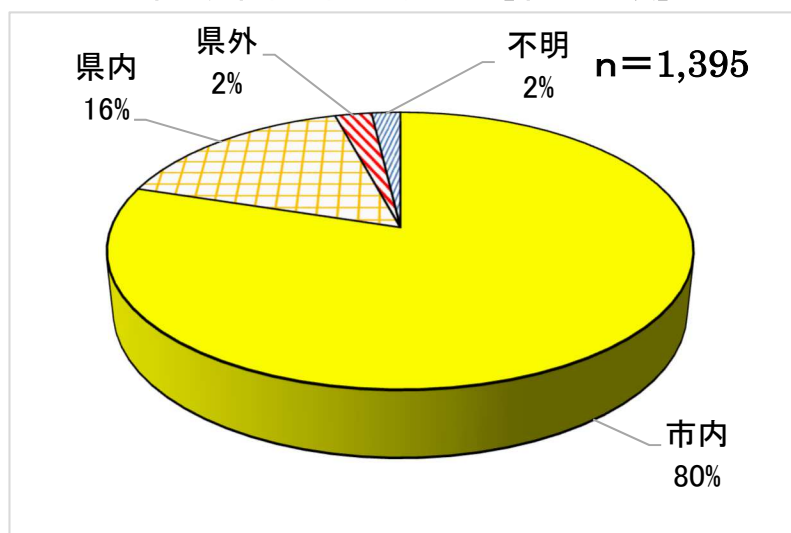


図 20 仙台市の HIV 検査受検者の受検経験別比率【令和 5 年度】

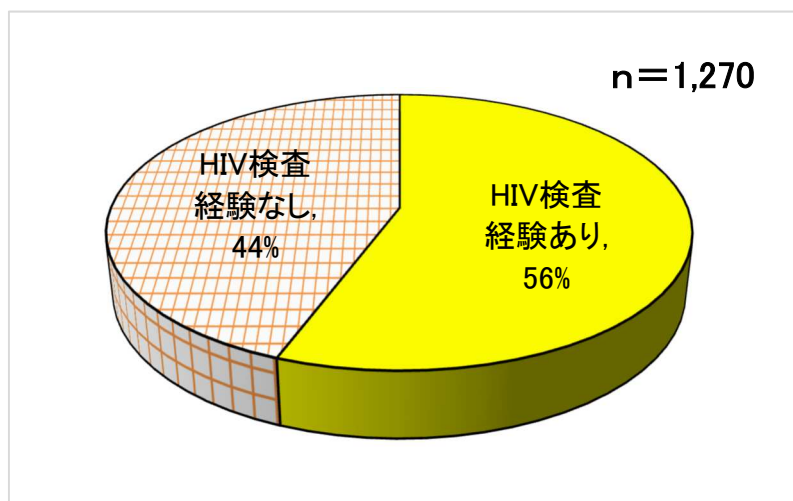


図 21 仙台市の HIV 検査受検者の男女別比率【令和 5 年度】

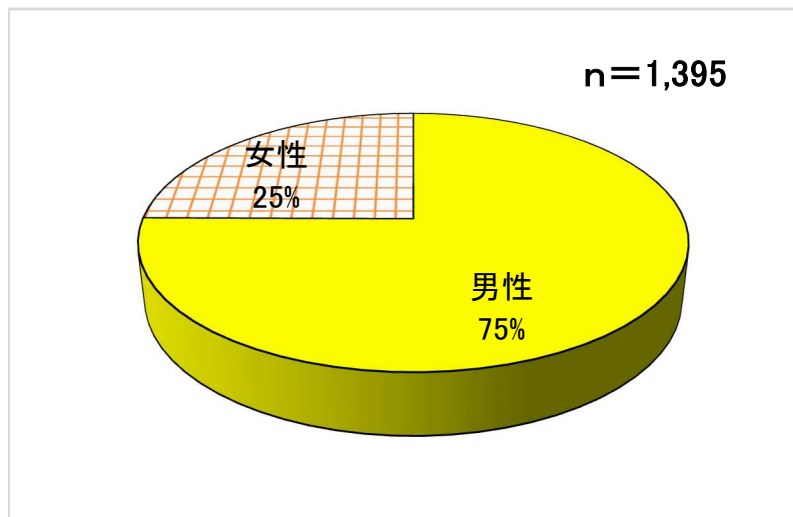


図 22 仙台市の HIV 検査受検者の性別・年代【令和 5 年度】

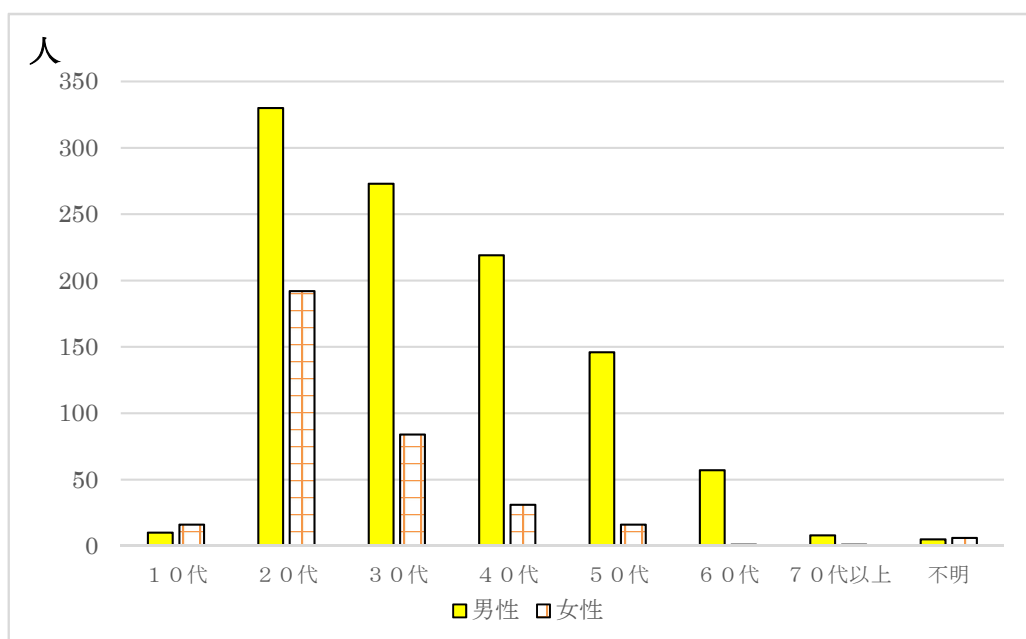


表 4 仙台市の HIV 検査の受検理由の割合（複数回答） 【令和元年度～令和 5 年度】

（受検理由／全受検者数） （％）

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
性行為による心配	86.1	90.4	91.7	90.3	92.5
血液感染による心配	3.6	3.7	5.2	2.3	2.9
気になる症状がある	12.0	12.0	10.7	12.4	11.5
その他	8.6	9.0	11.8	10.1	10.5

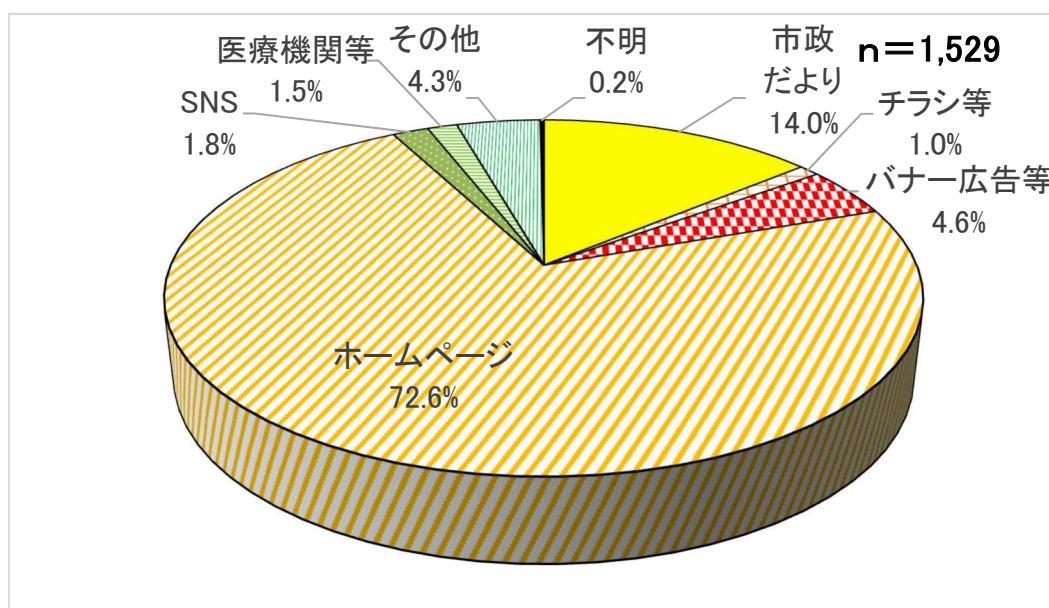
※複数回答のため、受検理由別割合の合計は 100 を超える

表 5 仙台市の MSM の受検状況【平成 26 年度～令和 5 年度】※MSM=男性と性的接触のある男性

	MSM 受検者数(件)	受検者合計数(件)	受検者に占める MSM 割合
H26 年度	93	1,759	5.3%
H27 年度	228	1,703	13.4%
H28 年度	191	1,590	12.0%
H29 年度	261	1,923	13.6%
H30 年度	287	2,006	14.3%
H31/R1 年度	279	1,951	14.3%
R2 年度	85	510	16.7%
R3 年度	127	727	17.5%
R4 年度	166	983	16.9%
R5 年度	234	1,489	15.7%

図 23 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体（複数回答）【令和 5 年度】

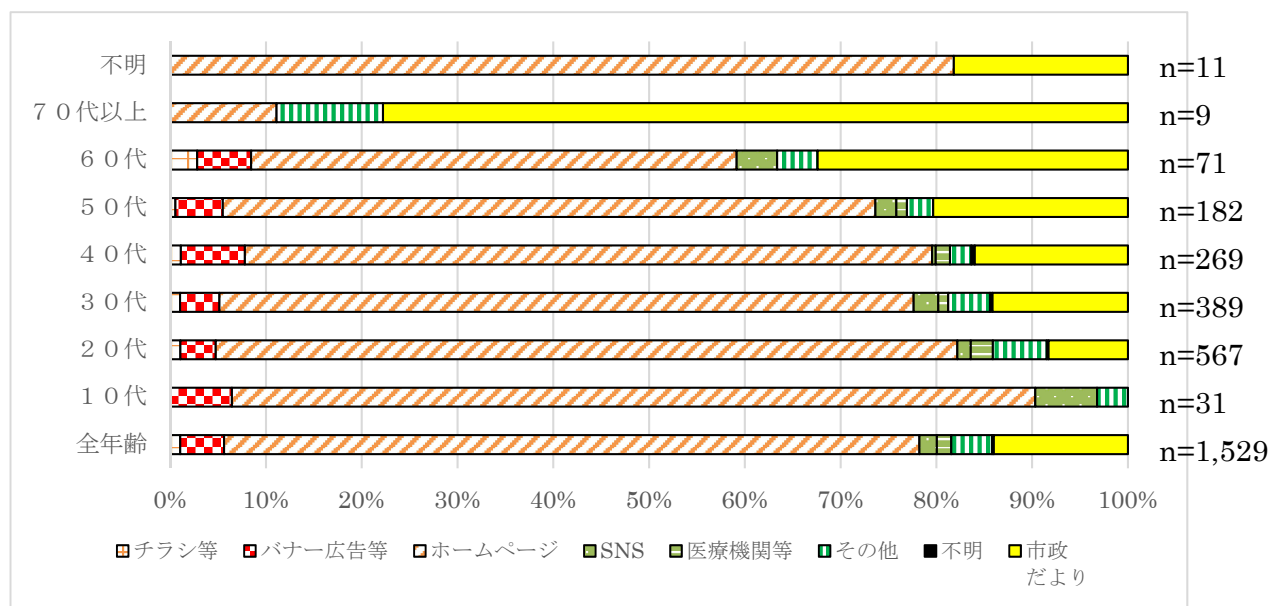
（媒体／回答数）



※当てはまるものすべてを選択する複数回答である

※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページを計上している

図 24 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体別割合/年代別（複数回答）【令和 5 年度】
（媒体別／各年代回答数）



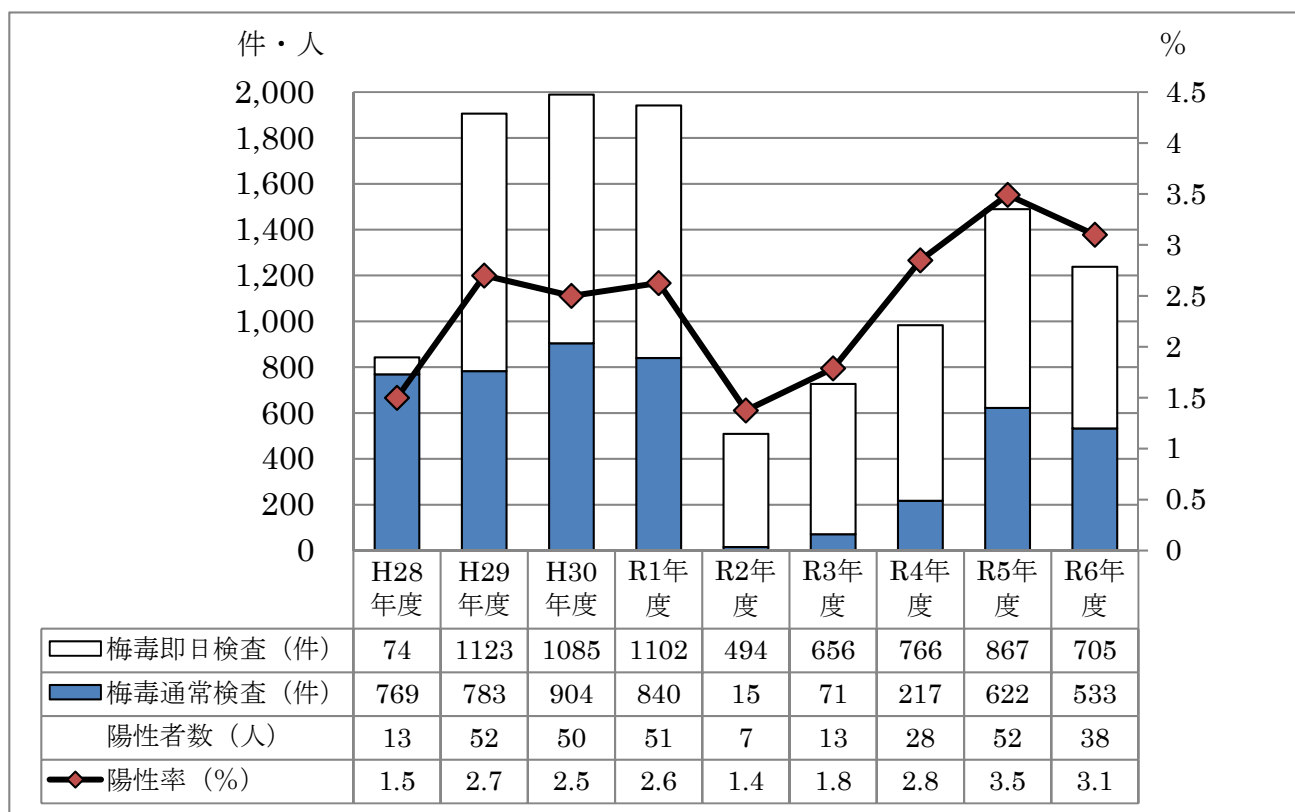
※当てはまるものすべてを選択する複数回答である

※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページを計上している

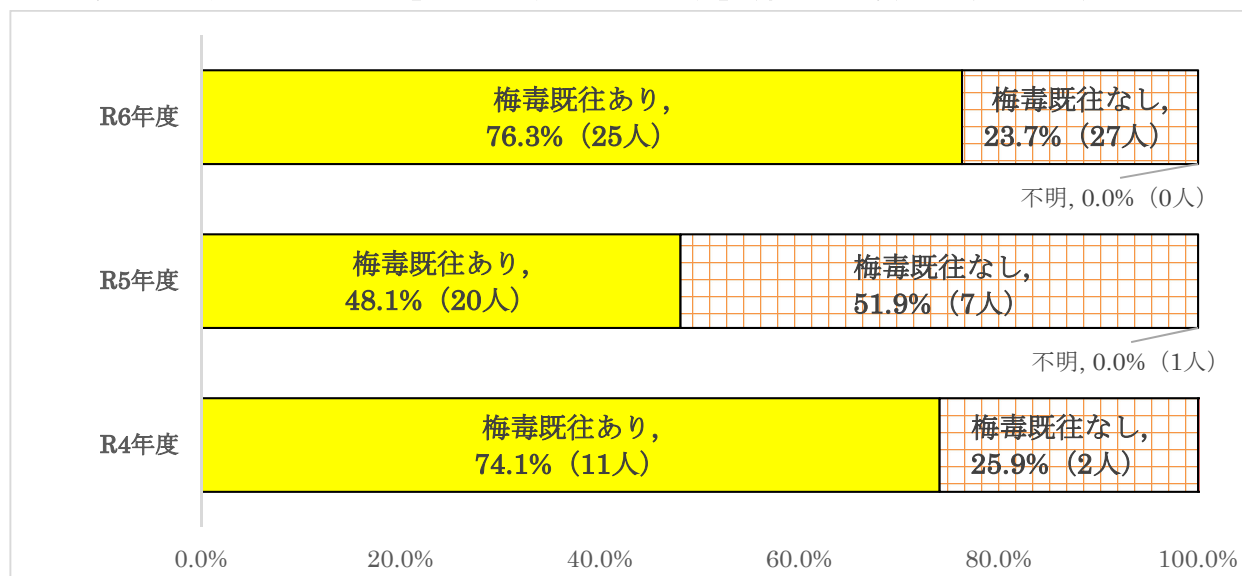
(2) 梅毒検査

- ・梅毒検査を段階的に拡充し、平成 29 年度より全検査会場で受検が可能となった。HIV との同時受検を必須とし、梅毒単独の受検は認めていない。
- ・令和 6 年度の検査件数は 1,238 件（11 月末現在）（即日検査 705 件、通常検査 533 件）である。
- ・梅毒の陽性率は平成 29 年度より上昇し、検査体制を縮小した令和 2 年度に一度低下したが、その後上昇傾向にあり、令和 6 年度は 3.1%であった。（11 月末現在）【図 25】

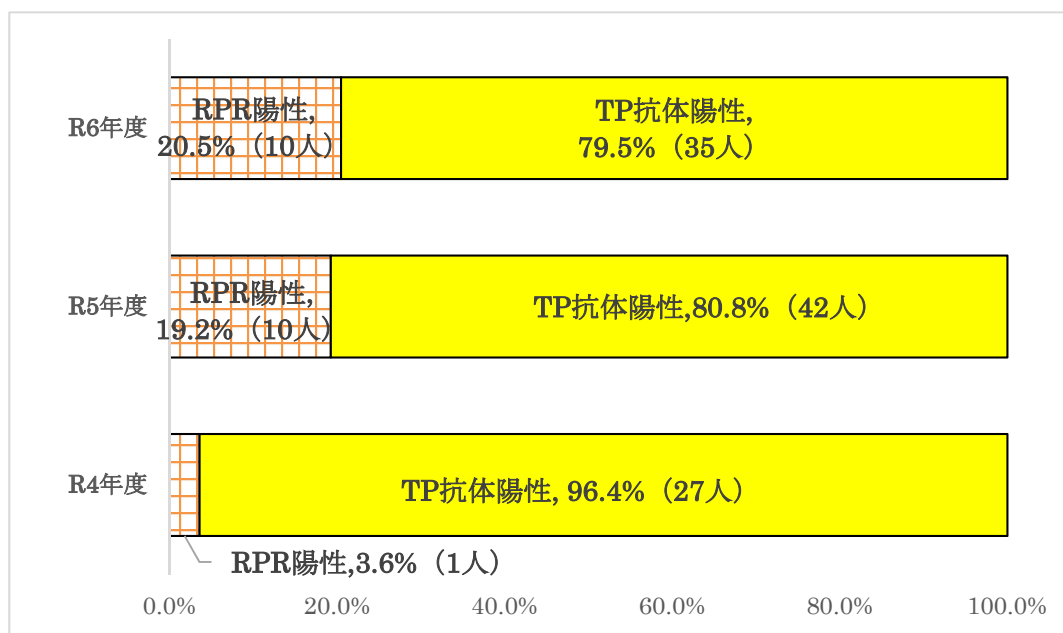
図 25 ①仙台市保健所の梅毒検査件数【平成 28 年度～令和 6 年度】（令和 6 年度は 11 月末現在）



② 梅毒陽性者の既往有無の割合【令和 4 年度～令和 5 年度】（令和 6 年度は 11 月末現在）



③ 梅毒陽性者の検査項目別の陽性割合【令和4年度～令和5年度】（令和6年度は11月末現在）



※梅毒検査の経過

- ・ H24 年 5 月～ 平日区役所検査にて梅毒検査を開始
- ・ H28 年 5 月～ 青葉区役所夜間検査にて梅毒検査を開始
- ・ H29 年 1 月～ 休日検査（即日）にて梅毒検査を開始
- ・ H29 年 4 月～ 国分町夜間検査（即日）にて梅毒検査を開始
- ・ H29 年 6 月～ イベント検査(即日)で開始、全検査会場で受検が可能となる
- ・ R2 年度 新型コロナウイルス感染症の影響により検査体制を縮小
- ・ R5～6 年度 各区役所の平日検査を順次再開
- ・ R6 年度 エイズ・性感染症医療機関検査事業にて梅毒検査を実施している

(3) クラミジア検査

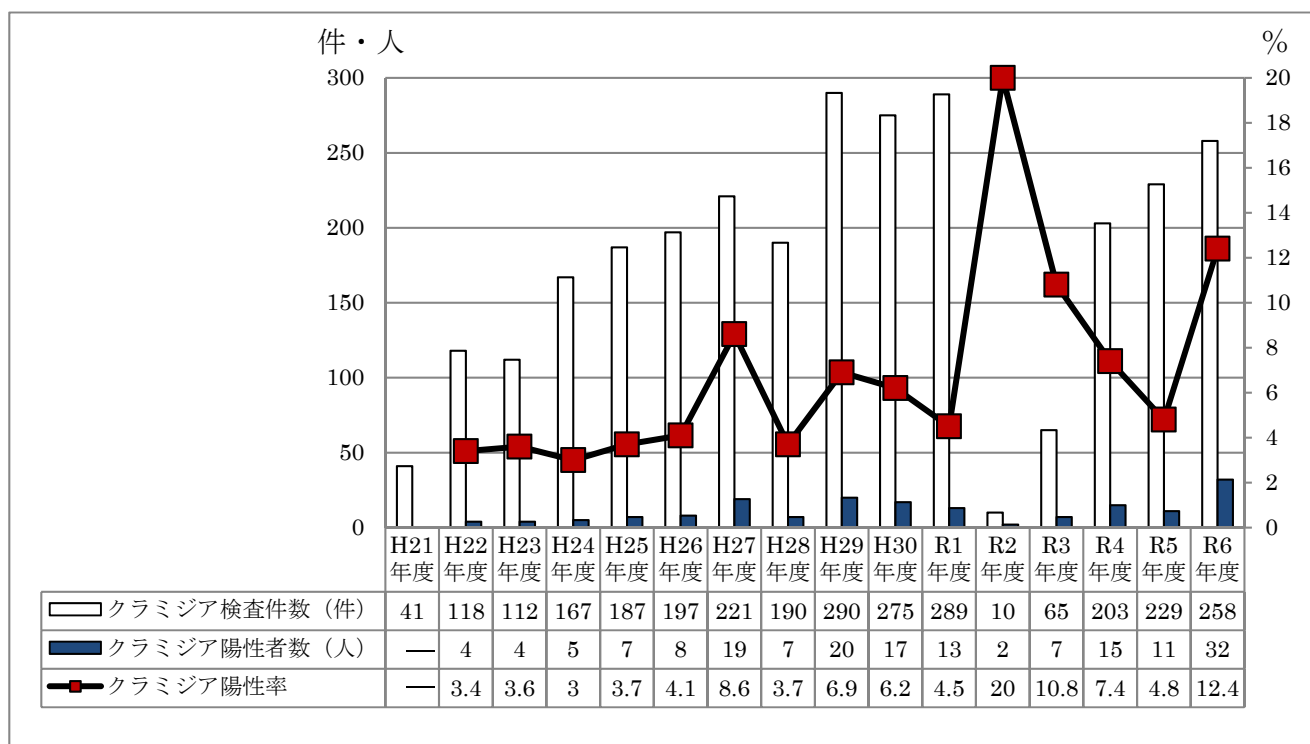
・クラミジア検査は、平成 21 年 10 月から令和 5 年 3 月まで青葉区役所夜間検査で実施し、令和 2 年度は 4 月のみ検査を行い、以後は新型コロナウイルス感染症対応のため検査を休止してきたが、令和 3 年 11 月より再開した。【図 26】

・令和 6 年度よりエイズ・性感染症医療機関検査事業にてクラミジア検査が受検可能となった。

・令和 6 年度は検査件数 258 件、うち陽性は 32 件（陽性率約 12.4%）であった。（11 月末現在）【表 6】

図 26 仙台市のクラミジア検査件数と陽性率の推移

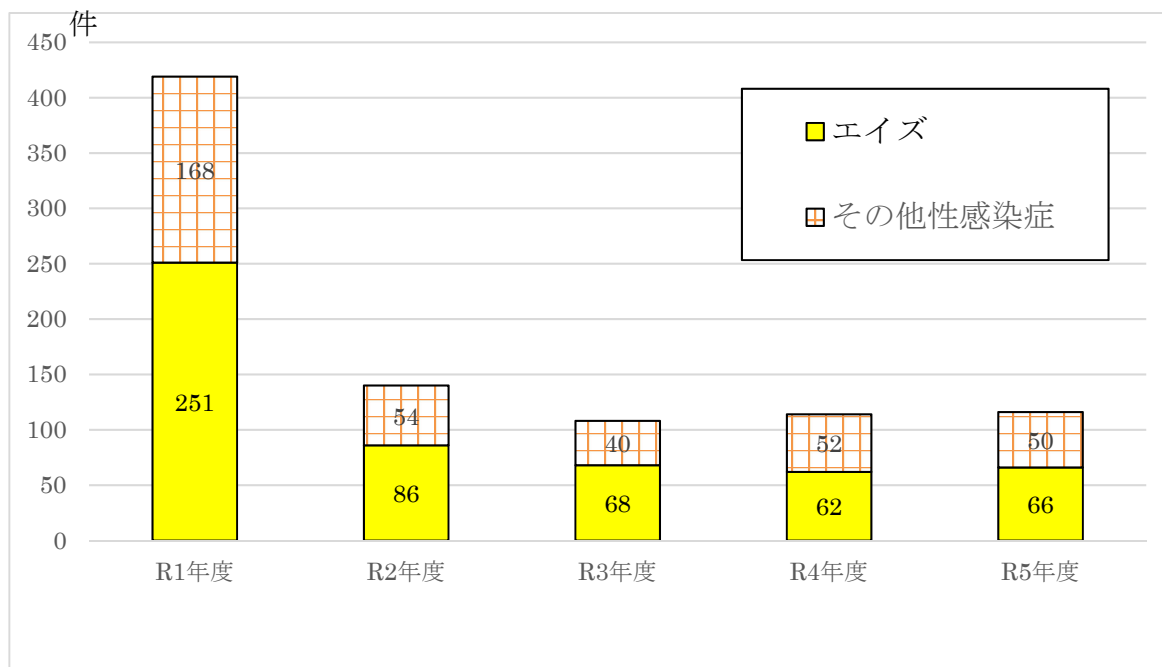
【平成 21 年度～令和 6 年度】（令和 6 年度は 11 月末現在）



5. 仙台市のエイズ・性感染症相談

・エイズ・性感染症についての相談を電話・来所にて受け付けている。検査体制縮小により令和2年度以降、来所相談・電話相談ともに大幅に減少している。【図 27】

図 27 仙台市の相談数の推移【令和元年度～令和5年度】



6. 仙台市のHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳交付状況

- ・令和5年度末現在、仙台市でHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳を所持されている方は157名である。【図28】
- ・令和5年度末現在、手帳交付を受けている60代以上の方は17名である（令和4年度末比-1名）。【図29】

図28 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数の年次推移【平成17年度～令和5年度】

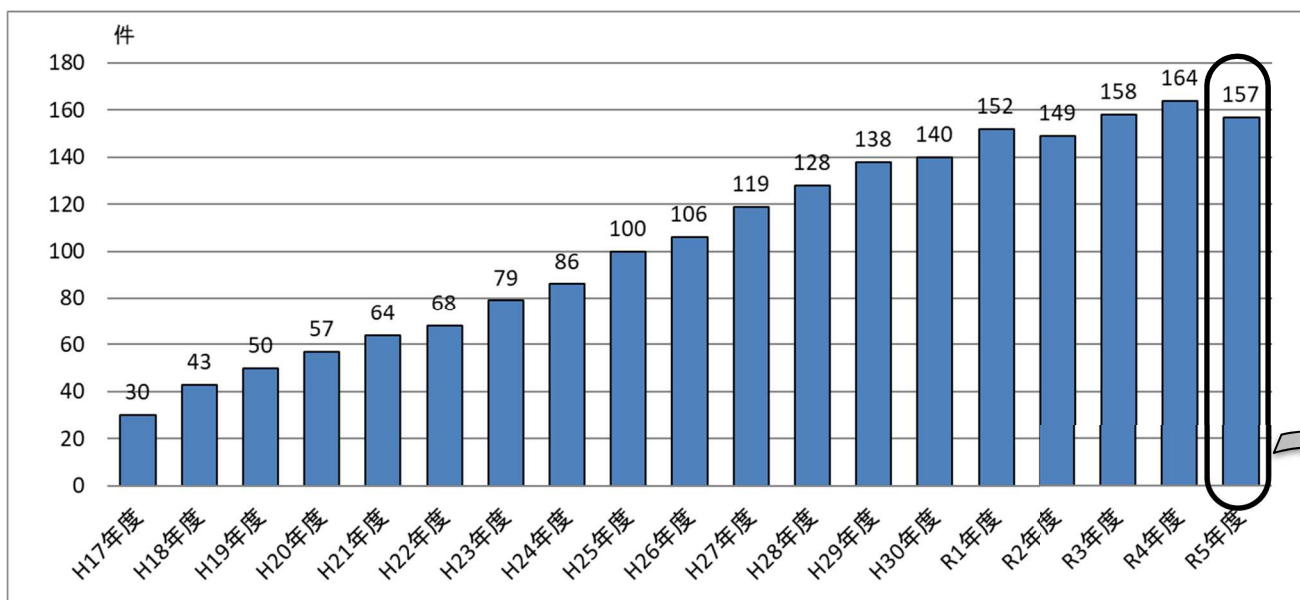
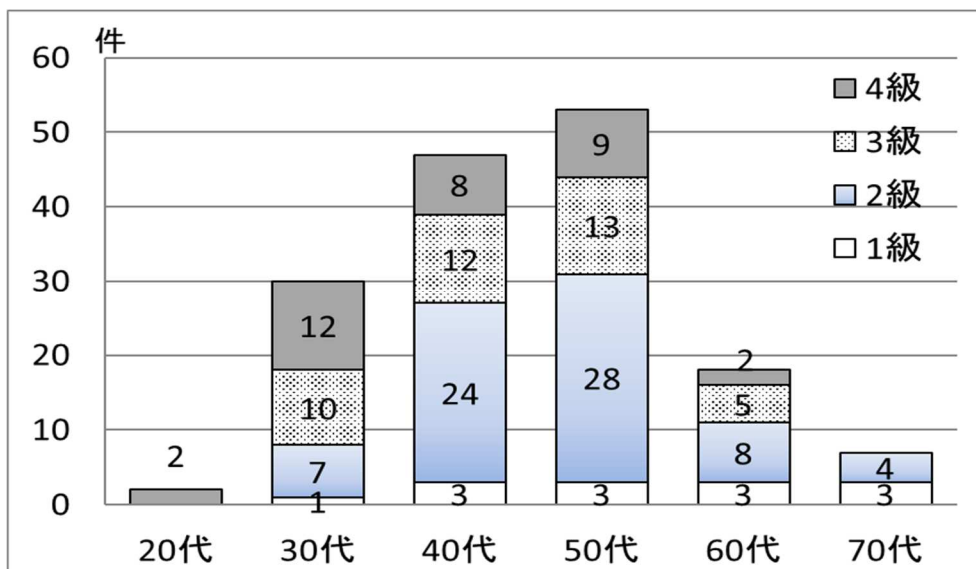


図29 等級・年代別 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数（令和5年度末現在）



※ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 障害程度等級表

1 級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活がほとんど不可能なもの
2 級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が極度に制限されるもの
3 級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が著しく制限されるもの（社会での日常生活活動が著しく制限されるものを除く。）
4 級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの